

2020 年度省エネ大賞 資源エネルギー庁長官賞受賞

JTEKT Receives the 'Agency for Natural Resources and Energy Commissioner's Award'
at the 2020 Energy Conservation Grand Prize

2021年1月27日、一般社団法人省エネルギーセンター主催の「2020年度省エネ大賞（省エネ事例部門）」において、当社の「CO₂ゼロチャレンジへの取り組み」が、「資源エネルギー庁長官賞（小集団活動分野）」を受賞した。

「省エネ大賞」は、優れた省エネへの取り組みを推進している事業者や事業場、省エネルギー性に優れた製品ならびにビジネスモデルを表彰するもので、この度の受賞は、2016年から取り組んできた「CO₂ゼロチャレンジ」における、現場の改善を中心とした大幅なエネルギー削減の成果が評価され、当社としては初めての受賞である。

当社では、地球温暖化などの環境負荷の低減と環境価値の向上を掲げ、2016年に「環境チャレンジ2050」を策定し公表した。「環境チャレンジ2050」で掲げる五つの指標の一つである低炭素社会の構築では、「製品を生産するときに工場から排出されるCO₂を2050年までに極小化」としている。その目標を達成すべく、公表目標よりさらに厳しい「CO₂ゼロチャレンジ目標」を社内目標として設定し、ジェイテクト単体で2020年度までに2001年度比でCO₂排出量原単位*を半減（＝2015年度比20%削減（4%/年）相当）するという挑戦的な目標を掲げ極小化を目指してきた。2019年度までの4年間における成果は2015年度比でCO₂排出量原単位を13.6%削減まで改善し、CO₂排出量にすると11%削減に相当する25,269t（原油換算17,339kl）の削減を達成している。

主な取り組み内容として、①材料までさかのぼった工法革新を行う生産技術革新、工場での日常改善として、②改善やり切り活動や非稼働時の省エネ徹底、③全生産ラインエネルギー見える化運用、④社内メンバーによる省エネ診断、⑤再生可能エネルギーの導入などを展開した。

取り組みの中でもCO₂排出量削減量の約4割を占める生産技術革新の開発事例として、アルミニウム溶解保持炉の開発事例を紹介する。従来の溶解保持炉における熱源は、すべてガスであった。ガスバーナーは溶解には適しているが排熱によるエネルギー損失が大きい。一方で溶湯の保持は浸漬電気ヒーターの方が省エネルギーと

なることから、ガスと電気の特性を生かし、ガスは溶解のみ、溶湯の保持・昇温を電気ヒーターに置き換えた「ハイブリッド溶解保持炉」を開発した。合わせて、炉体の断熱性能の向上や設備の小型化も図ることによりCO₂排出量は従来比50%削減を達成した。

昨今、世界の主要各国、各企業ではカーボンニュートラル達成に向けた具体的な目標を表明、日本政府も2020年10月に2050年のカーボンニュートラルを達成すると宣言し、2021年4月には2030年までの温室効果ガス削減目標を従来の26%削減から大幅に引き上げ、2013年度比46%削減とする目標を発表した。当社でもカーボンニュートラルの達成年度を従来の2050年から大幅に前倒しし、2035年にジェイテクト単体、2040年にオールジェイテクトでカーボンニュートラル達成を宣言し、取り組みを加速している。

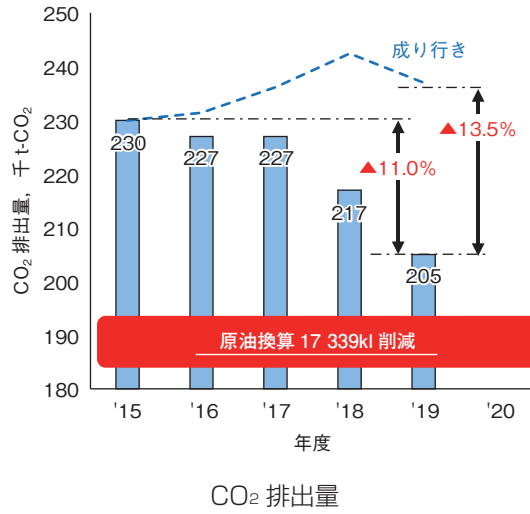
今後はカーボンニュートラルの達成を飛躍のチャンスととらえ、より一層環境負荷の極小化、環境価値の最大化に向けた取り組みを進め、持続可能な社会の実現に貢献していく。

* CO₂排出量原単位：内製生産高（億円）当たりのCO₂排出量（t-CO₂）

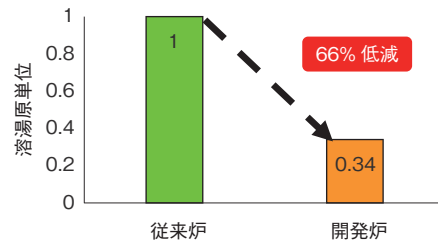
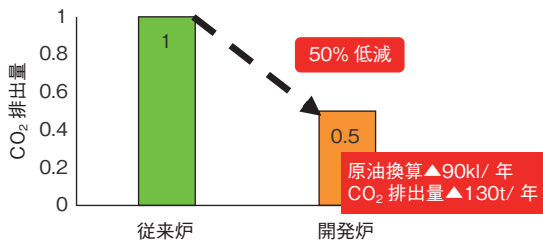
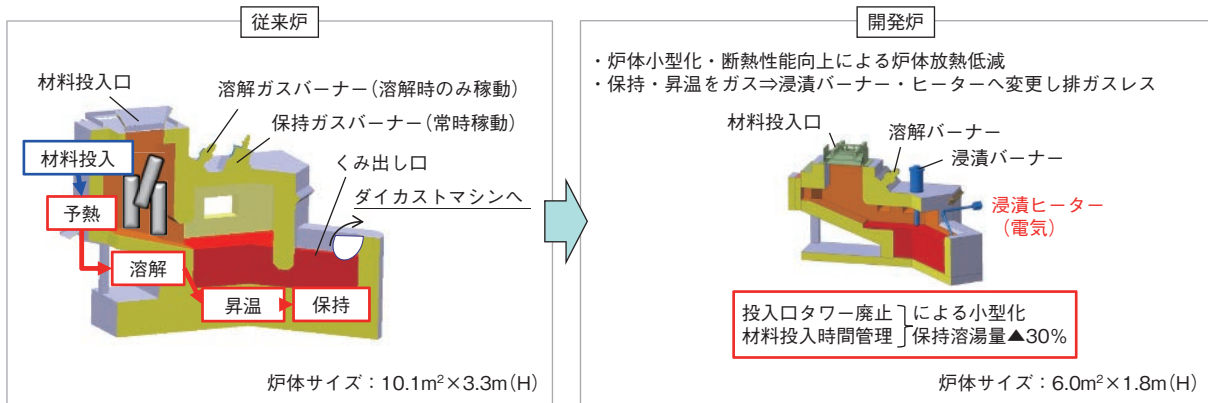


左から、佐藤社長、佐野経営役員

① CO₂ ゼロチャレンジによる実績



②開発炉：ハイブリッド溶解保持炉



開発炉：ハイブリッド溶解保持炉